

日 時：2020年1月28日(火) 20時10分～21時00分

会 場：ふれあい歯科ごとう

参加者：五島、阿部、和泉、稲山、榎本、大石、栗原、齊藤、袖井、堀尾、余郷、吉田、佐藤(惟)

テーマ：ホット・モーニングセット～チームで叶えた人生最後の願い～（報告者：和泉稔）

### ■事例概要

Sさん 77歳女性 独居 病歴：認知症、左足首腱鞘炎、腰椎椎間板炎症、骨粗しょう症、脱水症

X年4月 背部痛 9月から経口摂取困難となり入院⇒膵臓がんの指摘あり

退院時 Hクリニックに往診継続の依頼あり

高齢者総合相談センターから依頼を受け担当、初回訪問

CMの印象…①真っ暗で姿が見えない ②女優のようにきれいで気品がある

③とても口が元気（減らず口、憎まれ口）

### ■サービス内容

- ・福祉用具（床ずれ防止） ・訪問看護 1日2回（状態観察、保清）
- ・定期巡回 1日4回（排泄介助、食事提供） ・訪問診療 ・薬局

### ■サービス介入時の様子

夜間のせん妄が顕著。服薬管理ができず、金銭管理も困難

全身倦怠感、背部・下腹部痛みの訴え多い

### ■本人の願い

摂取量は少ないが食に対する意欲が強く、食べたい物を明確に伝える

ヨーグルト、スープ、サンドウィッチ、カップうどん…

往診時クリニックの先生がネットでカップうどんを一緒に調べて下さる（親切な対応に CM 驚く！）

チーム内の不協和音と、本人の状態悪化が進むなか本人が口にした願い…

「ドトールのモーニングセットが食べたい。冷たいのは嫌。出来立ての熱々の物を食べたい」

⇒ヘルパーの厚意により実現。CMとしても大きな達成感、本当にうれしかった。

### ■意外な贈り物

同年10月在宅酸素を開始…ご本人「ありがとう」と憑き物が落ちたような晴れやかな表情。

本当に何気ない瞬間、見たことのないような笑顔。⇒その6日後に亡くなられる。良いお別れができた。

### ■CMとして…

十分な対応ができたとは思わないが、チームの方々と一緒に願いを叶えられた達成感

チームだからこそ得られた幸せ、助け合い。利用者の希望を実現することがCMとしての意義

時間の予測ができない分、1日1日、一言一言を大切にしていかなければならない。

## <ディスカッション>

- ・ 人によっては「食べられないから」とペーストになってしまう人もいるが…「食べられない」の理由が全然違う、咀嚼ができない、飲み込みができないわけじゃない、ただ「食欲がない」人にペーストを出したらもっと食欲がなくなってしまう。
- ・ 最初ものすごい痛みがあって食事どころではなかった。薬剤師として少し関わっていたが食事のことは全然知らなかった。痛みのコントロールしか頭になかった。⇒後からこういう事が知れるのは幸せ。
- ・ 痛みがしっかり取れたから本人の希望通り口から食べられた。
- ・ 量は食べられなかった。それでも買ってきてほしかった。出かけて食べに行くのが常だったが代わりに持ってきてもらうことで心が満たされたのでは。
- ・ ドトールのモーニングセットもカップうどんも思い出があったのでは。自分が最期に何を食べたいかと言ったらやはり思い出の食事ではないか。
- ・ 甘え上手。CMは多くの利用者を抱え皆から毎回言われてもきりがないが…その気にさせるのが上手な人だった。都会の孤独を感じさせられる部分もあった。
- ・ 後見人の紹介をしようとしていた時に姪御さんが出てきた。会えて良かった。
- ・ 「チーム内の不協和音」とは？
  - ① お金のことは高相センターもCMも触れられないが…「お金はいじらないでください」と言っていたにもかかわらずいじってしまったヘルパーがいた。
  - ② ヘルパーが入った時に「ここができない」「あそこができてない」看護師がヘルパーに指摘する。看護師から「代えますよ」とヘルパーが言われたという。  
⇒CMとしてはチーム作りに苦しんだ事例。
- ・ 関わりは3週間くらいだった。「もう少し命があるんじゃないか」と思っていたが…うかうかするとモーニングセットを食べられなかった可能性もある。
- ・ 以前「願いを叶えられなかったCMなんだ」と泣きながらプランを作ったことがあった。今回は後悔しないようすぐに行動に移した。
- ・ 「やろうと思ったらすぐ」と思うけど実際にやるのは難しい。実際に間に合わなかったケースもある。思っていたよりも早く亡くなるケースもある。
- ・ こういうプランはCMとしてはとても悩むところ。IVHを付けて看取るつもりで自宅に帰ってきて「もう何も食べないように」と言われていても、ご本人が「食べたい」という時もある。
- ・ 「自分たちの領域ってどこまでなんだろう？」最期まで食べさせてあげたいけど…「ダメだよ」って言われたときに願いを叶えてあげられるのか。
- ・ 先生がOKと言っても家族の方が「万一のことがあったらどうする」と言ってなかなか食べられないケースもある。「身内は1日でも長く生きてほしい、本人は食べたい」という時にCMはどうするか。

- ・ 食べられないまま亡くなって後悔した家族もいるが…事前の家族への伝え方が難しい。
- ・ CM としては残される側の気持ちを考える。家族だけでなく自分たちもチーム。
- ・ ヘルパーさんは利用者さんに「今日は何を食べたい？」と聞いて買ってくることも多いと思うが、この事例ではどうだったか。
- ・ 定期巡回は短時間の訪問を 1 日に何回か分けてやるサービス。調理や買い物をする時間は通常ない。
- ・ 一緒に買い物や食事に行けたら良いが…⇒自費なら一緒に行ける。
- ・ 新宿区は横出しサービスで「リフレッシュサービス」というものがある。介護するご家族のいる方か、独居で認知症のある方だけ週に 1 回程度ヘルパーと一緒に食事や買い物に行ける（元々は家族の負担軽減を目的にした事業）。基本は 9:00～17:00 だが事業者がそれ以外の時間で受けてくれることも。
- ・ 豊島区も選択的介護がある。あまり使われていないが「この人と一緒にご飯を食べるから美味しい」というところもあり、こうしたサービスは重要である。

#### <論点まとめ>

- ・ この症例で言うとやはり最後は痛み。痛みをなくすことはとても難しい。それを取れるか取れないかでこれだけ変わる。
- ・ ドトールに行けてよかった。この話をドトールに持っていったらお得な券をもらえるのでは。
- ・ 外出支援をやっていると「行きつけのドトールに行きたい」という高齢の方が多い。店員さんも「最近来てなかったから心配していた」と声をかけてくれたりする。コミュニティができています。
- ・ 新宿区の横出しサービスは素晴らしい。こうしたサービスがもっと充実すると良い。

#### <次回予定>

日 時：2020 年 3 月 17 日（火）20 時 00 分～

場 所：ふれあい歯科ごとう

発表者：栗原俊介

以 上